国土交通省
Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

令和　４年１０月１４日
中部地方整備局 紀勢国道事務所

国道４２号　熊野尾鷲道路（Ⅱ期）開通から１年

～ダブルネットワーク化により災害・医療・観光面などで効果が発現～

１．概　　要：

国道 42 号　熊野尾鷲道路（Ⅱ期）は、令和 3 年 8 月 29 日に開通し、高規格道路のミッシングリンクが解消するとともに、東紀州地域※1から名古屋都市圏までの連続した高速ネットワークが形成されたほか国道 42 号とのダブルネットワーク化による道路機能の強化が実現しました。

開通から 1 年を迎え、利用の状況など、これまでに発現した整備効果をとりまとめましたので、お知らせします。

※１：東紀州地域（紀北町・尾鷲市・熊野市・御浜町・紀宝町）

■高速ネットワークの形成による交通量の変化　別紙 2
- 開通後の国道 42 号と熊野尾鷲道路（Ⅱ期）をあわせた交通量（平日）は 29%増加

■尾鷲市内の交通事故件数が減少　別紙 3
- 開通区間に並行する国道 42 号の事故件数が約 3 割減少し、安全安心な道路利用に寄与

■時間短縮に伴い高次医療機関への転院搬送が増加　別紙 4
- 伊勢赤十字病院への転院搬送件数が 3.8 倍に増加し、医療活動を支援

■遠方の高次医療機関への直接搬送が増加　別紙 5
- 直線搬送ができる医療機関が拡大し、より高次な救急救命が可能に

■災害時の迅速な救助・救援活動が可能に　別紙 6
- 緊急時入退出路の整備により、災害時の迅速な救助・救援活動を支援

■道路整備により遠方の観光客が東紀州地域へ　別紙 7
- 紀宝町にあるキャンプ場は、アクセス性向上により、宿泊者数・来場者数ともに増加し観光支援に寄与

２．配 布 先：

三重県政記者クラブ、第二県政記者クラブ、尾鷲記者クラブ、熊野市政記者会

３．問合せ先：国土交通省　中部地方整備局　紀勢国道事務所

副　所　長　近藤　弘司
計 画 課 長　大鷲　浩己
TEL 0598-52-5365

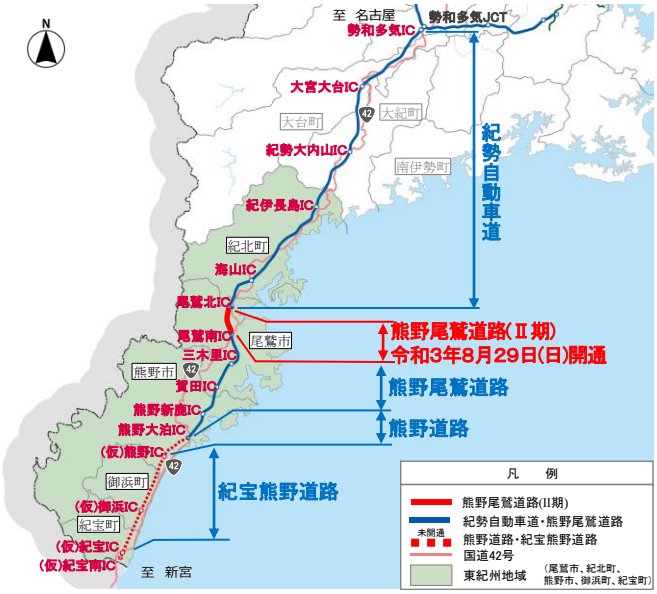
別紙1

国道42号 熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の概要

■国道42号熊野尾鷲道路(Ⅱ期)は、尾鷲北IC－尾鷲南IC間（延長5.4km）を結ぶ高規格道路です。

■国道42号　熊野尾鷲道路（Ⅱ期）は、令和3年8月29日に開通し、高規格道路のミッシングリンクが解消するとともに、東紀州地域から名古屋都市圏までの連続した高速ネットワークが形成されたほか国道42号とのダブルネットワーク化による道路機能の強化が実現しました。

■広域図



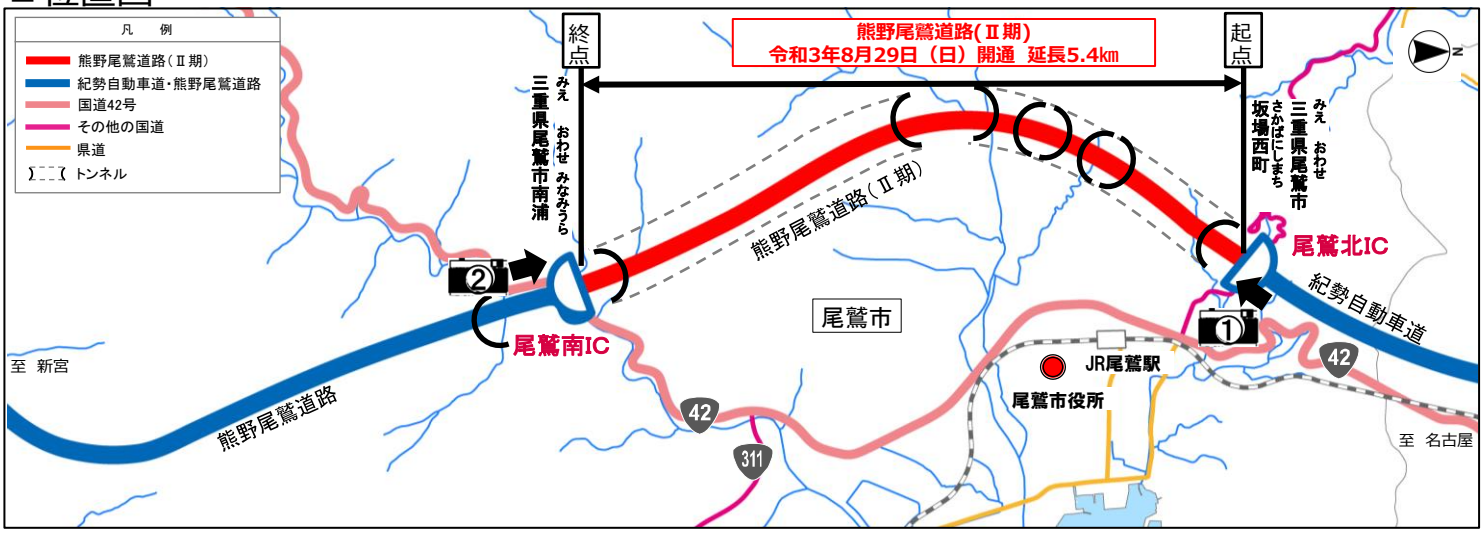
■計画諸元

路線名	国道42号　熊野尾鷲道路（Ⅱ期）
区間	起）三重県尾鷲市坂場西町（尾鷲北IC） 終）三重県尾鷲市南浦（尾鷲南IC）
延長	5.4km（2車線）

■高規格道路とは

高規格道路とは、人流・物流の円滑化や活性化によって経済活動を支えるとともに、激甚化、頻発化、広域化する災害からの迅速な復旧・復興を図るため、高速自動車国道を含め、広域的な道路ネットワークを構成し、求められるサービス速度が概ね60km/h以上の道路。

■位置図



令和4年9月9日撮影

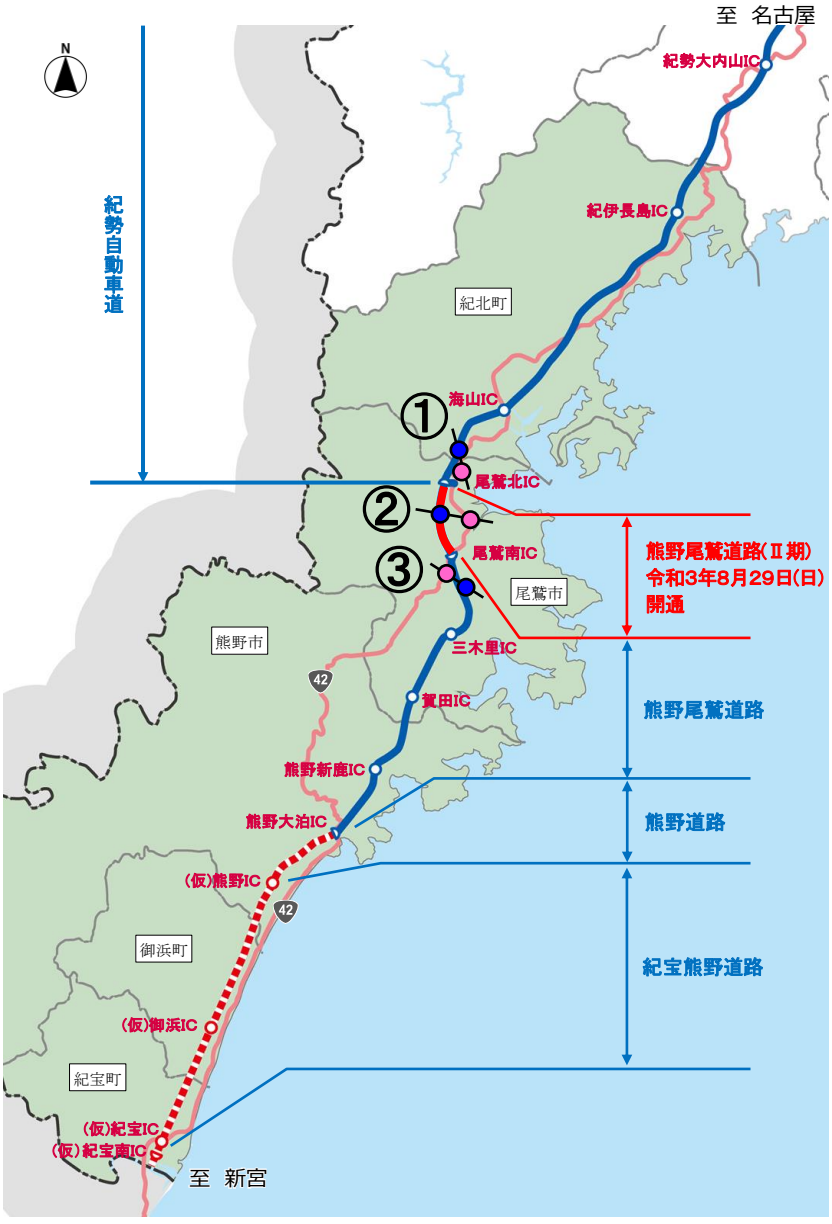
令和4年9月9日撮影

別紙2

高速ネットワークの形成による交通量の変化

■紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の平日の交通量は、熊野尾鷲道路（Ⅱ期）開通前（平成27年）と比較して最大29%と大きく増加しています。

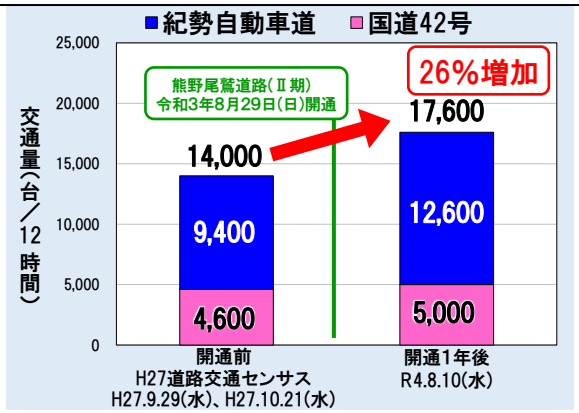
■交通量調査箇所



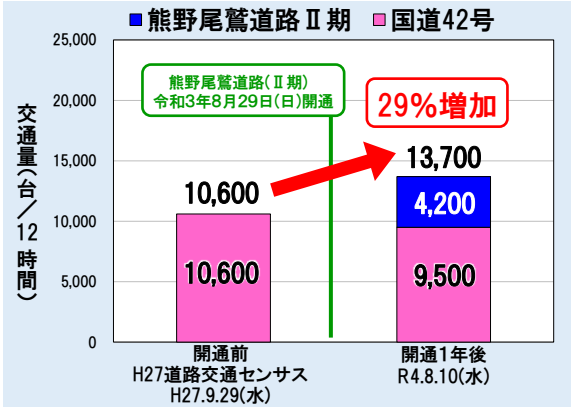
凡　例
- 熊野尾鷲道路（Ⅱ期）
- 紀勢自動車道・熊野尾鷲道路
- 未開通 熊野道路・紀宝熊野道路
- 国道42号
- 調査箇所
- 東紀州地域（尾鷲市、紀北町、熊野市、御浜町、紀宝町）

■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)開通前後の交通量の変化

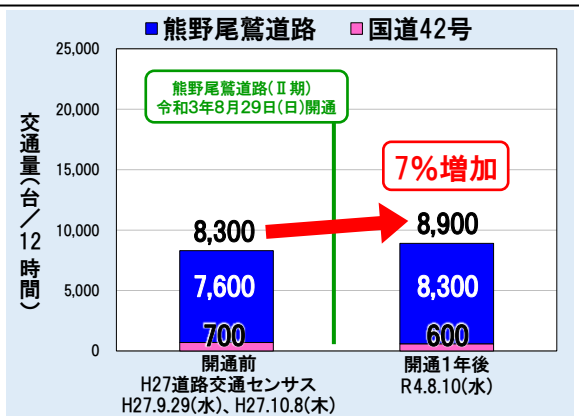
①紀勢自動車道(海山IC～尾鷲北IC間断面)



②熊野尾鷲道路(Ⅱ期)(尾鷲北IC～尾鷲南IC間断面)



③熊野尾鷲道路(尾鷲南IC～三木里IC間断面)



資料：紀勢国道事務所による交通量調査結果
※交通量は平日12時間（7時～19時）データ
※交通量は各路線毎に四捨五入し100台単位で表示

別紙3

尾鷲市内の交通事故件数が減少

■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)に並行する国道42号の一部区間には、アップダウンのある区間やカーブが連続する区間があります。
■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)が開通したことにより、国道42号の交通が転換しています。
■国道42号の交通が転換し交通量が減少したことから、交通事故件数が約3割減少し、安全・安心な道路利用につながっています。

■国道42号の道路状況

アップダウンのある国道42号

令和4年5月10日撮影

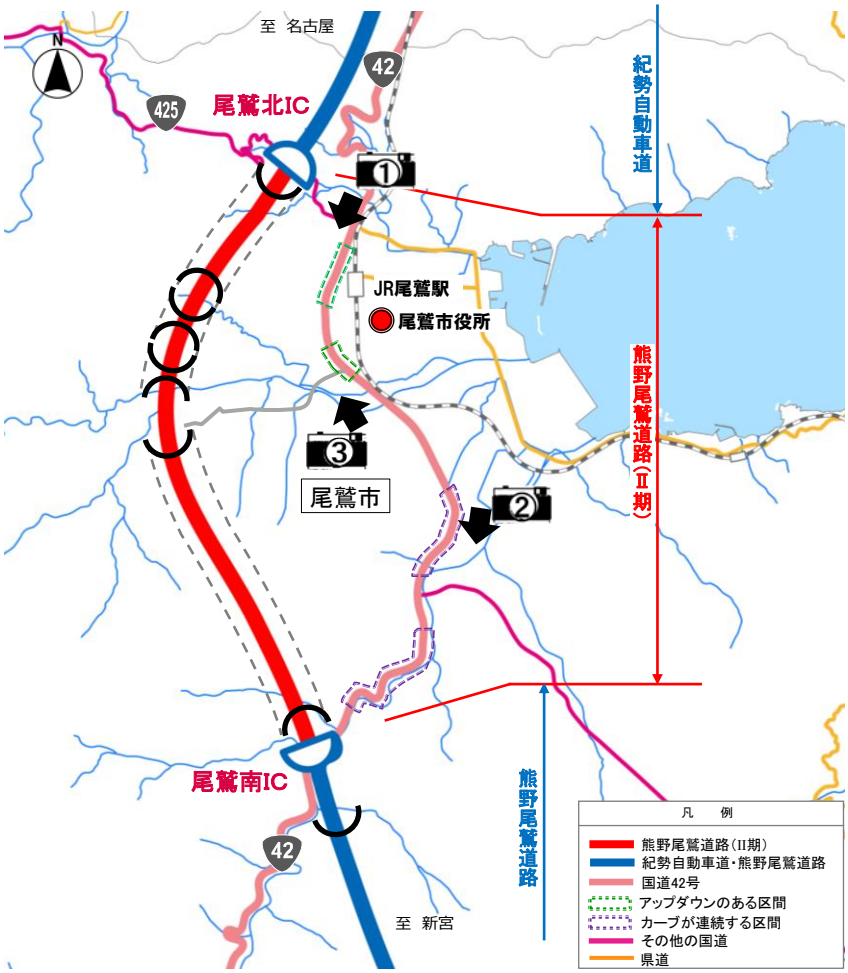
カーブが連続する国道42号事故多発地点

令和4年5月10日撮影

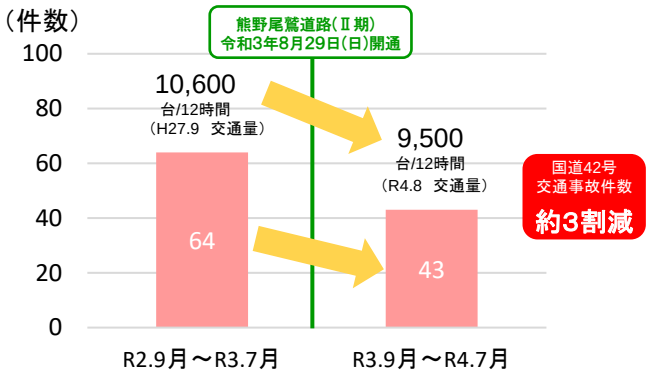
国道42号尾鷲市内で発生した事故の状況

令和3年12月2日撮影

■位置図



■国道42号の交通事故件数の推移



出典 交通事故：尾鷲警察署提供資料より作成
交 通 量 ：開通前交通量はH27道路交通センサス、
開通後交通量はR4.8.10調査による

尾鷲市を通過するだけの車が減ったことで、運転をしていてヒヤリとすることが少なくなりました。

[尾鷲市民の声]
出典：R3年度市民アンケート調査結果より

熊野尾鷲道路(Ⅱ期)開通後から、国道42号の交通量が減ったこともあって、交通事故件数が減少しています。

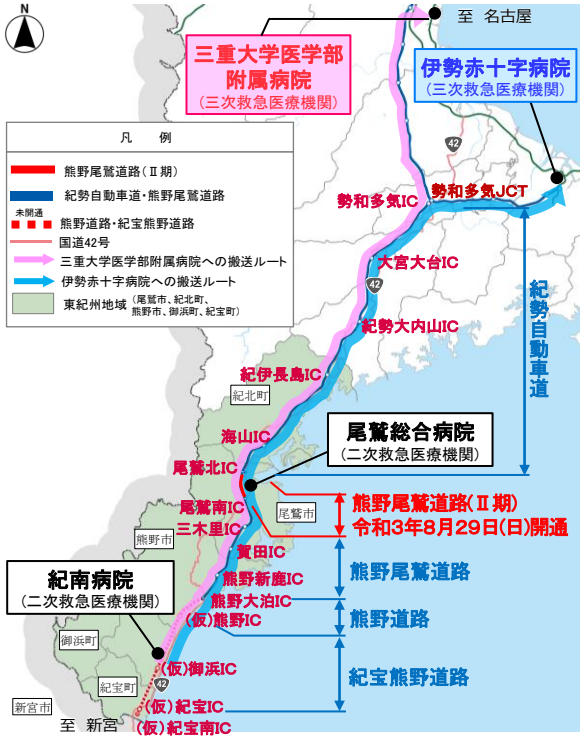
[尾鷲警察署の声]
出典：R4年度ヒアリング結果より

別紙4

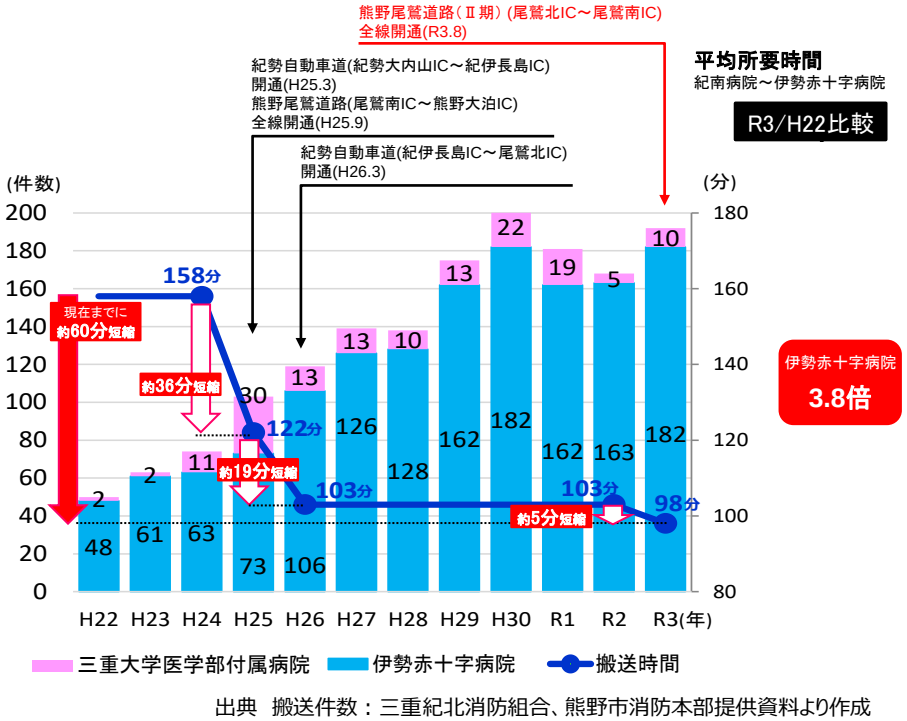
時間短縮に伴い 高次医療機関への転院搬送が増加

■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の開通により、紀南病院から伊勢赤十字病院までの転院搬送時間が約５分短縮しています。また、紀勢大内山ＩＣ以南の開通前（10年前）と比較し、約60分短縮しています。
■東紀州地域の救急医療機関から伊勢赤十字病院への転院搬送件数は、3.8倍に増加し、道路整備により、高次医療を受けやすい環境に変化しています。
■また、搬送時の横揺れが大幅に減少したことにより、患者の負担が軽減するなど、救急医療活動を支援しています。

■東紀州地域からの転院搬送ルート

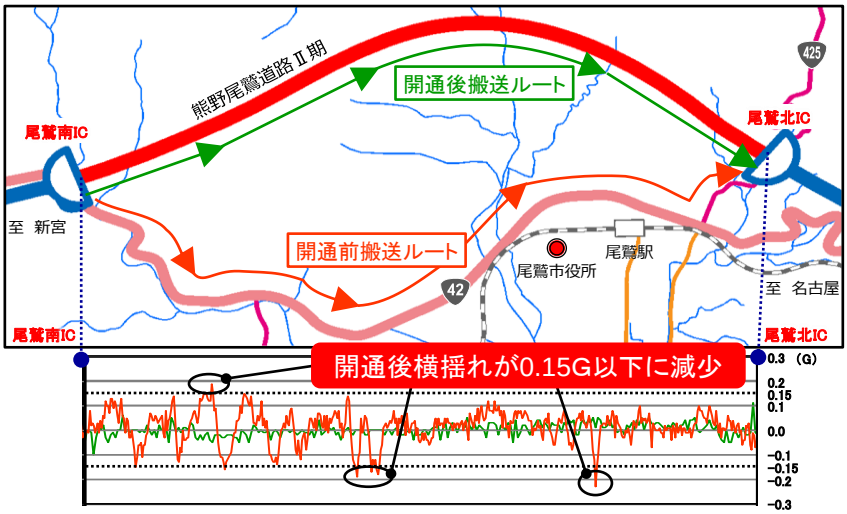


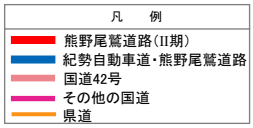
■紀南病院から伊勢赤十字病院への転院搬送時間の変化と東紀州地域の救急医療機関からの転院搬送件数の推移



出典 搬送件数：三重紀北消防組合、熊野市消防本部提供資料より作成
紀南病院～伊勢赤十字病院所要時間：
熊野市消防本部提供の走行実績値

■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の搬送時における横揺れの発生状況





凡例 ：熊野尾鷲道路(Ⅱ期)整備前（国道42号・425号通行）
：熊野尾鷲道路(Ⅱ期)整備後
＋：右折 －：左折 ※横揺れ0.15Gを超えると搬送患者の容態に悪影響がある可能性がある

出典 救急車プローブ調査結果：開通前 R3.8.12 、開通後 R3.9.9
搬送患者に掛かる横G：第27回日本道路会議「地域の医療を支援する道路構造の分析・評価」

尾鷲市内は国道４２号を通行していましたが、カーブや信号が多く、患者の負担になっていました。今回の開通による短縮時間は約５分ですが、実感としてはそれ以上の効果を感じています。

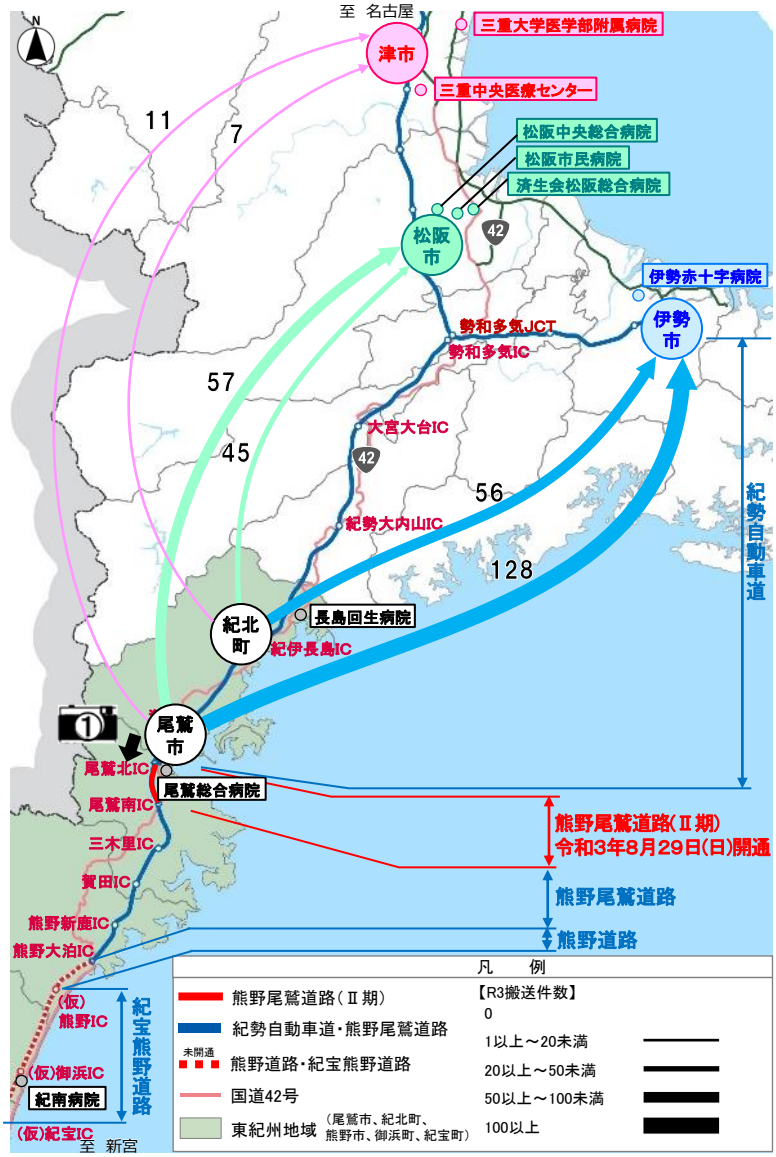
［熊野市消防本部の声］
出典：R3年度ヒアリング結果より

別紙5

遠方の高次医療機関への直接搬送が増加

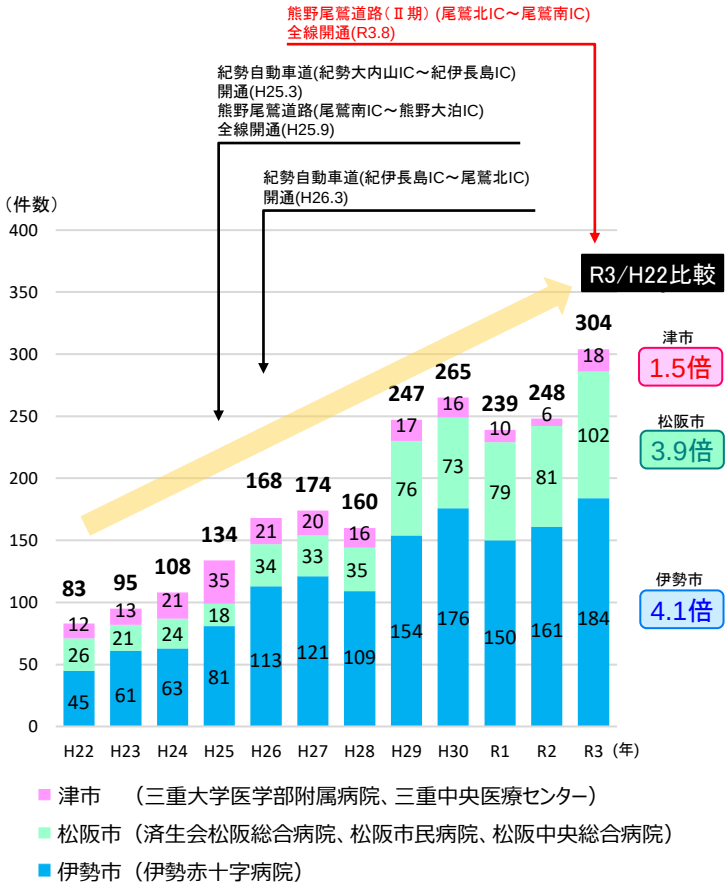
■高規格道路の整備により、遠方であっても直接搬送できる医療機関が拡大したことで、患者の状況に応じ、より高次な救急救命が可能になっています。
■三重紀北消防組合(尾鷲市・紀北町）管内から津市内の病院への直接搬送件数は１０年前に比べ1.5倍、松阪市内は3.9倍、伊勢市内は4.1倍に増加しています。

■三重紀北消防組合(紀北町・尾鷲市)管内からの直接搬送先の変化（R3の搬送件数）



出典：三重紀北消防組合提供資料より作成

■三重紀北消防組合(尾鷲市・紀北町）管内からの直接搬送件数の推移



出典：三重紀北消防組合提供資料より作成

■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)を走行する救急車(尾鷲北IC)

令和4年7月13日撮影

紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の順次開通により、遠距離であっても、患者の状況に応じた高次な医療が受けられるようになりました。

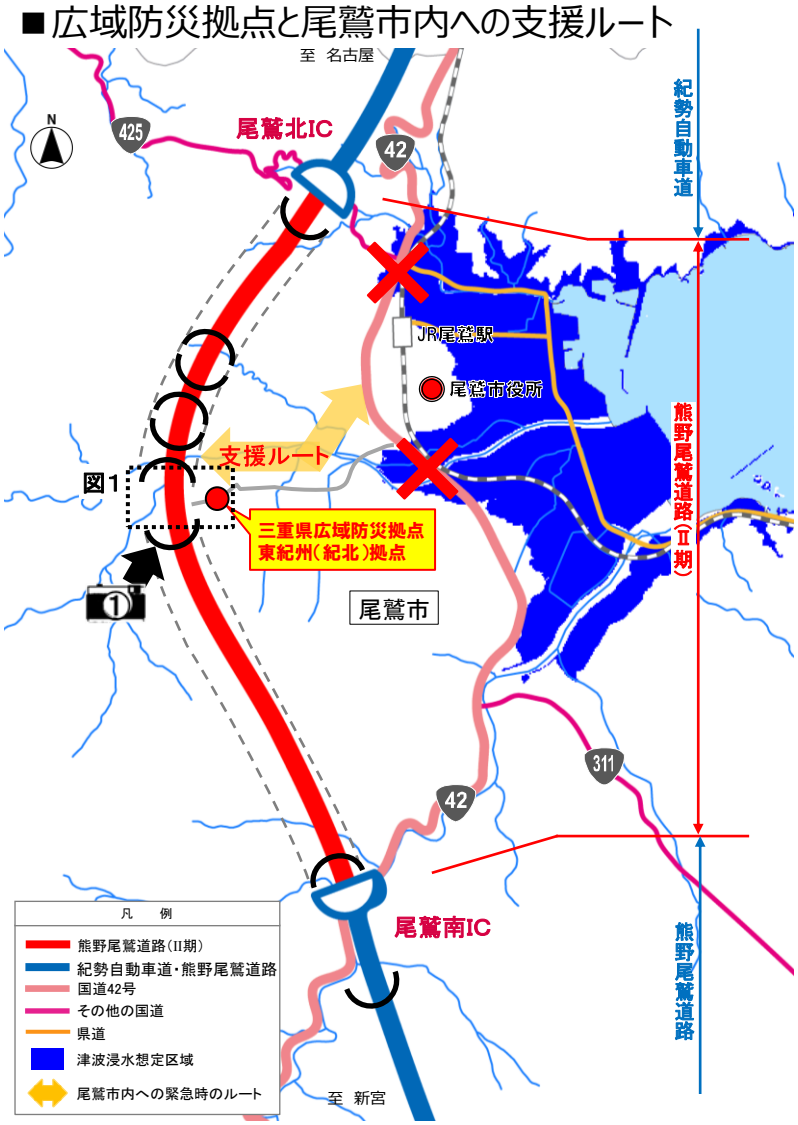
［三重紀北消防組合の声］
出典：R4年度ヒアリング結果より

別紙6

災害時の迅速な救助・救援活動が可能に

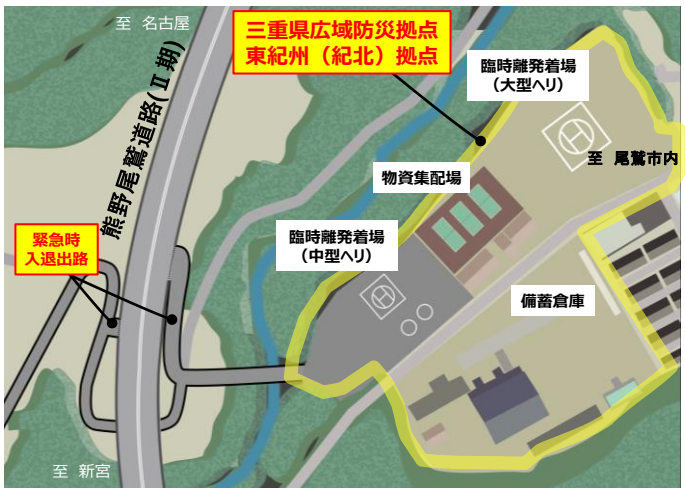
■尾鷲市内の国道42号は南海トラフ地震による津波浸水想定区域を通過する箇所があり、尾鷲市内への支援ルート確保に課題がありました。
■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)では、緊急時入退出路を整備したことで、広域防災拠点から尾鷲市内への支援ルートが確保され、災害時の迅速な救助・救援活動を支援します。
■熊野尾鷲道路(Ⅱ期)開通で尾鷲市民の約8割の方が災害時の安心感が向上したと感じています。

■広域防災拠点と尾鷲市内への支援ルート



出典：三重県津波浸水予測図 （平成２５年度地震被害想定調査）

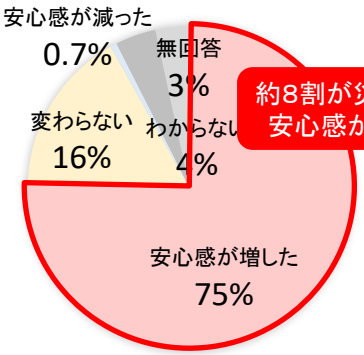
■緊急時入退出路と広域防災拠点（図１）



令和4年9月9日撮影

■災害等に対するくらしの安心感

Q 熊野尾鷲道路の全線開通による暮らしへの効果
・大雨や災害に強い熊野尾鷲道路があることで安心感が増しましたか？



約8割が災害等に対する安心感が増したと回答

有効回答数 N=768
出典：熊野尾鷲道路全線開通に関するアンケート調査（R3年度）
（尾鷲市民のみ集計）

今回、熊野尾鷲道路(Ⅱ期)がつながったことで、**被災時の広域的な連携も可能となり、くらしの安心感がより高まった**と思います。
今後も高規格道路の整備が進むことで、地域の防災力がさらに高まることを期待しています。

［尾鷲市防災危機管理課の声］
出典：R3年度ヒアリング結果より

別紙7

道路整備により遠方の観光客が東紀州地域へ

■新型コロナウイルスによる観光への影響が大きい中、紀宝町にある飛雪（ひせつ）の滝キャンプ場では、テントサウナなど新たな取組も相まって、昨年に対し8月の宿泊者数が1.7倍、来場者数が1.5倍と大幅に増加しています。
■また、近畿、中部、関東方面など遠方からの来訪も多く、熊野尾鷲道路(Ⅱ期)の開通も含めてアクセス性向上に寄与しています。

■位置図

■飛雪の滝キャンプ場

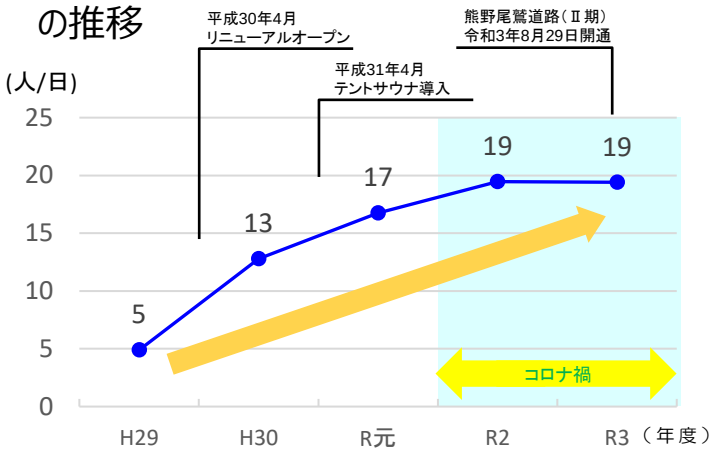
○キャンプ場

令和4年5月7日撮影

○テントサウナ

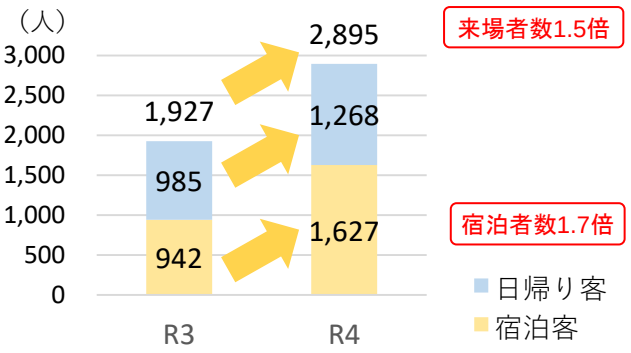
令和4年5月7日撮影

■飛雪の滝キャンプ場　1日当たりの宿泊者数の推移



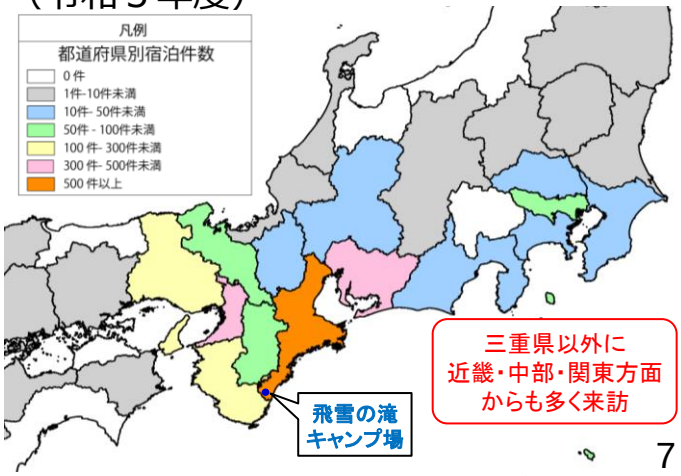
※平成29年度は7月15日～8月31日のみ営業。また、新型コロナウイルスの影響で、令和2年4月9日～5月31日、令和3年8月27日～9月30日は臨時休業しているため、一日あたりの宿泊数に換算

■飛雪の滝キャンプ場 8月の利用者数の変化



※令和3年8月27日～31日は緊急事態宣言発令に伴い臨時休業

■飛雪の滝キャンプ場　宿泊者の居住地（令和３年度）



紀勢自動車道・熊野尾鷲道路の延伸により、**遠方からのお客様が多くなっています**。
更なる延伸に期待しながら、世界遺産熊野古道や吉野熊野国立公園など地域特有の資源を活かした取組みを進めて、**更なる地域活性化**につなげたいです。

［飛雪の滝キャンプ場　管理者］

出典：R4年度ヒアリング結果より

出典：紀宝町提供資料より作成